

多職種スタッフに 看護業務の理解を促進



シリンジや輸液セットといった看護師が扱う医療機器を、ほかの職種が体験するとどうなるか？ 立川中央病院(東京都立川市)では、2回にわたって看護師と多職種による体験型の医療安全研修を行った。看護師は日常業務の振り返りを、他職種のスタッフは看護業務への理解を深める機会となった。

「医療安全の研修は、全員参加を呼びかけても看護師ばかり集まりがちです。今回のT-PAS研修には、多職種が参加してくれて、栄養科はもとより事務職など医療業務を行わないスタッフにも知らせてもらうよい機会になりました」と話すのは、立川中央病院の医療安全管理者の長谷部真帆さん。

T-PAS(予測予防型の安全対策)研修は、シリンジや輸液セットといった汎用医療機器による事故を防ぐために、添付文書に記載された注意事項のうち、発生する頻度や危険度が高いものを模擬的に体験して理解する、テルモ株式会社提供の研修プログラムである。

今回、同院の研修に参加した約半数は、理学療法士、診療放射線技師、管理栄養士、看護助手、ケアスタッフ、事務職などのコメディカルが主であった。シリンジや注射針を初めてさわるスタッフも多く、会場の各所で「へえ、こんなの初めて！」と看護師に手技を尋ねる風景がみられた。

実際に行っている手技でヒヤリ

一方、それらの機器を日常業務で取り扱う看護師にとっては、ふだんは気がつかない盲点に目を向けるきっかけになったという。

「今回、薬剤の混注時にシリンジの黒いガasket部分を針で刺してしまい、その穴からエアが混入するという事例を体験しました。実際に眼科の皮内テストな

～参加者に聞いてみました～

Q 研修に参加してみて
いかがでしたか？



看護
師
以
外
の
職
種

初めて触るものもあり、
使ってみてリスクなど
大切さがよくわかった

他部門の物品に触れる機会は
よいと思う

看護
師

いままで知らずに
使用していたことがあったので
勉強になりました

業務内で日常的に
潜んでいる危険があるため、
みなさんにぜひ学んでほしい

実際の物品を用いて行えたので
面白かったです

サイフォニング現象の原理について
実践することができて、
シリンジポンプの高さに注意することなど
具体的にわかりとても勉強になりました

看護師さんの技術は
すごいと思った

看護師39人、コメディカル(理学療法士、診療放射線技師、管理栄養士、看護助手、ケアスタッフ、事務職)42人、その他6人が参加

(2011年7/20、8/30開催の研修参加者へのアンケート結果より)

どで行っている手技なので、ドキッとしました」と話すのは一般病棟看護師の牧山雄一さん。

シリンジの位置が患者より高いところにあり、シリンジの押し子が固定されない場合、落差で薬液が大量注入されるサイフォニング現象も模擬体験した。

「たとえば、シリンジポンプを何台もつなげなければならない重症の術後患者さ

んの場合、人間の心理として上にどんどん重ねてしまうことがあります。できるだけ患者さんと同じ位置に設置するように指導していますが、投与する薬剤の種類・量によってポンプの台数が増え、結果的に設置スペースの問題が発生し、患者さんとのあいだに高低差が生じてしまいます。ポンプにシリンジをセットする方法も重要ですが、シリンジ自体の取り扱



「添付文書はなかなか手元に残らないし、文章を読むより実際手にとって理解するのはよいと思いました」と一般病棟の牧山雄一さん



「病棟ごとの勉強会がありますが、このような全体の研修機会は少ないので新鮮でした」と外来処置室の築田彰子さん



「体験してみてもわかってもらいうい機会。ほかの職種の仕事を知ることができるものよいですね」と手術室の篠原みゆきさん



「他院での事例を知ることができたことも参考になり、今後の日常業務の参考にしたい」と療養病棟の小町寿枝さん

れてしまうものなんですね。きょう来られなかったスタッフに教えたいと思いました。再確認という意味でもよかったです」と話す。

相互理解が業務をスムーズに

療養病棟看護師の小町寿枝さんは、「T-PAS研修は実際の事例がもとなっているので、普通の体験型研修と異なり、すぐに役立つということからもおもしろかったです。うちの病棟からはケアスタッフが多く参加し、新鮮に感じてくれていたようです。ふだんは業務を一緒に行うこともあり、介護業務は手伝えても逆は難しいという状況がありました。今回の研修で、こちらの業務を理解してもらえ、今後、現場でほかの業務を優先させなければならないときに状況を納得してもらえるのではないのでしょうか。協力し

合う態勢をつくるためにも有効だと思います」と、あえて多職種に参加を呼びかけたという。



チーム医療が普及し、個々の専門能力を結集することが求められている。しかし、同時に隣にいる多職種のスタッフの理解なくしては、チームワークは成り立たない。

ふだん話をしない部分、たとえ言葉にしても伝えにくい業務内容を多職種が体験して理解を促すことは、相互理解と尊重につながるのではないだろうか。

今回の研修では、「繊細な医療機器を用いる場面では慎重な手技とリスク回避のための気配りが求められる」という看護業務の一端を、看護師以外のスタッフも体験することとなった。各テーブルで、看護師が自らの業務内容を多職種に説明する姿が印象的だった。

いによって、サイフォニング現象は起こりうる、と感じました」と話す。

これらの注意事項は、添付文書に記載されているが、なかなか現場でみる機会はないうえ、文章を読んだだけでは理解しにくい。

外来処置室看護師の築田彰子さんは、「前回参加したスタッフが“おもしろい”と言っていたのを聞いて参加しました。実際、おもしろかったです。シリンジを冷蔵庫で冷やすと、衝撃に弱くなるという事実には驚きました。あんなに簡単に割



職務を知ることが理解や尊重を生みます

看護師長・医療安全管理者 長谷部 真帆さん

多職種のスタッフが看護業務を知る機会はなかなかありません。漠然と、「大変そう」とよく言われますが、どのように大変なのかは結局、体験しないとわからないことです。

今回の研修で、看護師が直接患者さんに接する場所で危険を予測し、回避するためにさまざまなことに気を配っていることをわかってもらうよい機会になりました。そして、どの職業もそうだと思いますが、職務への理解は必要です。理解することは、互いを尊重することにつながるからです。チームワークのためにも大切なことだと思っています。



体験しながら多くの情報が得ることができました

看護部長 伊東 恵美子さん

T-PAS研修は今回初めての実施でしたが、多職種のスタッフにも興味をもってもらえたようです。添付文書の確認をそれぞれの業務に置き換えて、改めて確認作業が必要だと再認識する機会になったのではないのでしょうか。私自身も知らないことがあり、びっくりしました。初心を忘れがちなか堅の看護師にも、ふだんの手技を再確認するよい機会になったと思います。

当院は115床という小さな病院という

こともあり、とくに専門的教育担当者をおかず、各病棟で個々に勉強会を行うことが多いのです。そのため、全体の研修会となると、内容や講師の調整に頭を悩ませます。ふだん使用している機器の情報が盛り込まれたT-PASのような研修は参考になりますし、ありがたいですね。

機器の材質や構造といった専門知識と、全国の病院の事例をもとにした説明はわかりやすく、参加者も私たちが話すときより熱心に聞いてくれたと思います。